

令和5年度（2023年度）

金沢大学法科大学院

入学試験問題

商 法

C日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は3枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

令和5年度(2023年度)金沢大学法科大学院入学試験問題

試験科目	商	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

問題1(10点)

会社法上の公開会社とは何か、公開会社特有の規定を列挙しつつ述べよ。

問題2(15点)

次の事例を読み、[問い]に答えなさい。なお、[問い](1)と(2)は、独立した問題である。

Yは、製造業を営むことを目的とする甲株式会社の設立を計画発起している。

[問い]

(1) 甲株式会社は、現時点ではまだ設立手続は完了しておらず、設立登記もなされていない。Yは、将来設立される甲株式会社の宣伝のために、世界的に有名なアイススケーターであるXを招いてアイスショーを開催することを企画し、まだ設立されていない甲株式会社の名義で、Y自身をその代表取締役とし、Xと交渉した。そして高額の報酬金を支払うことを条件に、Xの招へいに成功し、アイスショーを開催した。

しかし新型コロナウイルス感染拡大の影響もあって、思ったほど観客が入らず、当該報酬金を支払うことができなかった。

Xは、誰に対し、どのような請求をすることが考えられるか、判例を踏まえて述べよ。

(2) Yは無事、甲株式会社の設立にこぎつけ、設立登記がなされた。ただ、Yは、設立に際してZ株式会社との間で事業譲渡契約を締結しており、設立後、その事業譲渡を受けて甲株式会社にその権利義務一切を引き継いだものの、当該事業譲渡契約のことを原始定款に一切記載していなかった。

その後、甲株式会社は、事業譲渡契約で決められたZ株式会社からの事業譲渡に伴う代金の支払いを行わなかった。そこでZ株式会社は、甲株式会社に当該代金の支払いを求める裁判を起こした。

甲株式会社は、Z株式会社からの代金支払請求に対し、どのような反論をすることができるか、判例を踏まえて述べよ。

以上